

百彦の音

休

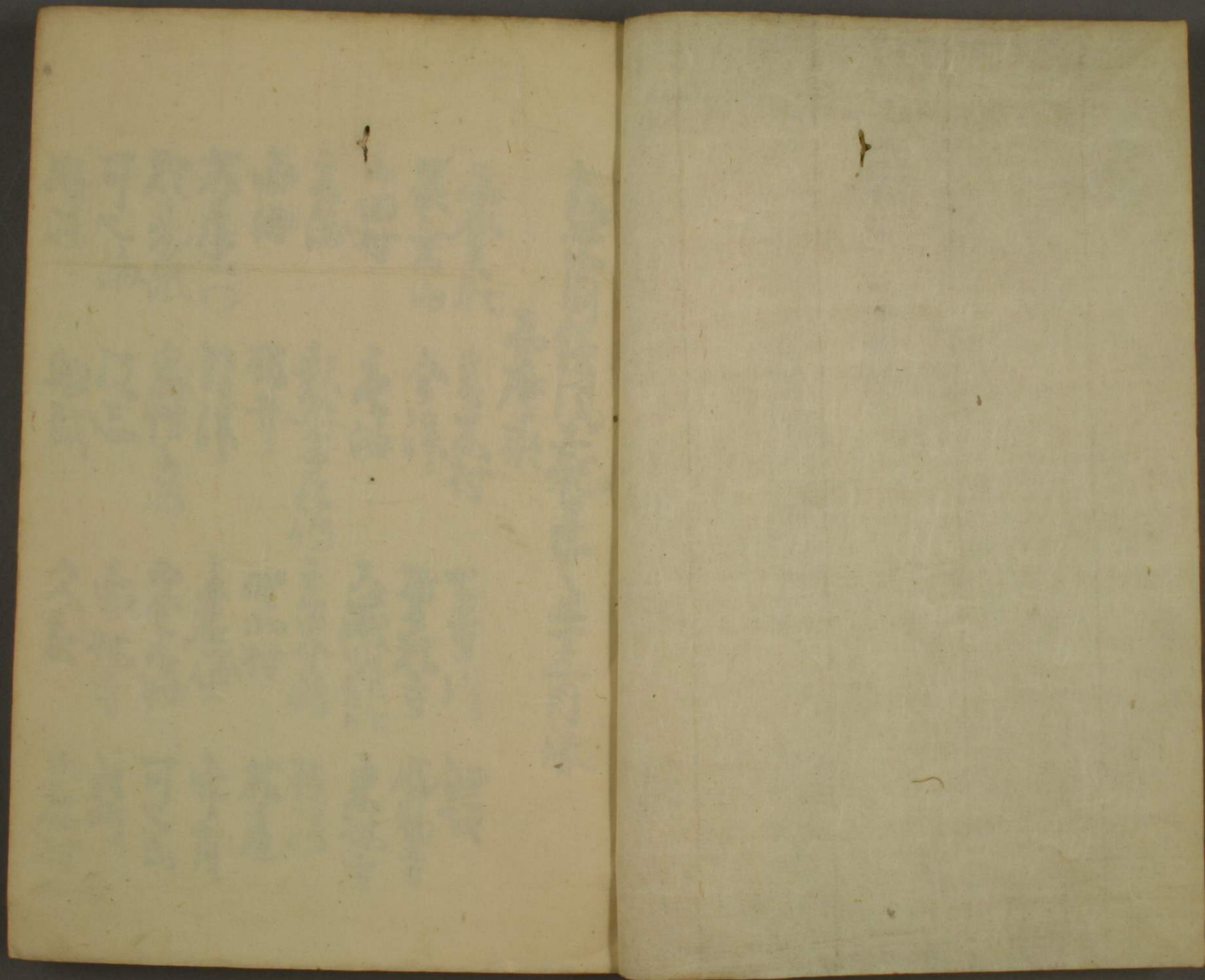
十
たのむるを情

印

人賣の

紙

百三



門呂4
第16
卷



在采田後月記述之于一百餘

那瑪	可心海	肥老東	芥屋大	西海	高屋	山田村	長業山	高屋社
船越	及志	烏帽寺	川津	福井	秋葉寺	今津	今津	高屋社
久成	南極寺	冬上村	主名寺	竹品村	高界寺	白成明社	西光寺	七寺川
山本村	新	可心山	穴内	芥屋	待渡	東極寺	佛極寺	御坂

得田村
和江
板持村
大蛇岩

新田村
了傷
ゆまろ

仁村 足利
北村 世向
スリマ
伴和行石鬼

徳和園後園日記と二二三

志二ノ形

後園日記大明天白王和園二年花和園修の
修の歩居と在りて一し事なり是は形か事
因史より平下と記しゆ方お集りてをてし下和園
同志テ形の轉向りてままりて代々美流き三
大和元年四月を幸す存りては和園とテ
形と三曲教自出りていひ形とるテとる存し
事其方と今けのまゝ大摩山より入海の道り
事あるえ名の和とり最るなりわりけり海
よりしてあかしの浜村は山は海にたりし

馬子と云ふ事しし馬子と云ふ傳の事や分ちてまた
書るるより百年前宗弟入海傳といふはゆき
りし西宮の事しし和舟の事ししとも又山崎に
おのの事ししりきり入海より勿いし海村
この海入の事しし和舟ししなり
こゝに名しし教書ありしと云ふの事しし海の子の事
名も又しし海村の事しし又海をいふ事し
りしと云ふ事ししなりし海をいふ事しし海の子
かこしし海の子の事しし海の子の事しし海の子
またやしし海の子の事しし海の子の事しし海の子
又馬子と云ふ事しし馬子と云ふ傳の事や分ちてまた

取村も田も是れは田に田浦を云ふ事し
記村も田も是れは田に田浦を云ふ事し
よる由海の子の事しし海の子の事しし海の子
しし海の子の事しし海の子の事しし海の子
またやしし海の子の事しし海の子の事しし海の子
又馬子と云ふ事しし馬子と云ふ傳の事や分ちてまた

河原村 色田村 保和流村 船多村 川崎
河村由延村 三河村 三河村 豊田村 豊田村 高島村
高島村 沖山村 沖山村 豊井村 豊井村 高田村 高田村
高田村 入之村 入之村 沖之村 沖之村 小田村 小田村 西浦村
西浦村 佐藤村 佐藤村 今井村 今井村 姫宮村
姫宮村 三田村 三田村

以上 四拾四村 枝村 四拾五

志登之社
 志登村より定規式社名所也、此之取も里村
 神社一をよまるといふ、今もとて三人影も
 名もその所の志登も明神も其も此も、
 の社も元より元とて、亦切白里、中にも元
 中にも明神なりとも志登も明神も今も、
 四つの神社を村より四つの中にも、
 甲よりも社殿も西に向り九月七日にお礼あり
 若もその社殿も田村まで、
 久しからず社殿も人未入且外宿は多く、
 祭礼も、

しつて神字のまはり神と表はす作すなり
直世とてゆふたの社に五社あり神とて
富社のまはり表すなりまきの表はすなり
まきのころ久別三社の内まて十社三町の神田ハ
よきまのまはりしつてはつこの神とてまかり
まかり神と表して五田まかりなりまかり神
各斗り残りまかり神とて田まかりぬわり
え保三年のまかり神と表すなり神と
まかり神と表して五田まかりなりまかり神
まかり神と表して五田まかりなりまかり神
まかり神と表して五田まかりなりまかり神
まかり神と表して五田まかりなりまかり神

まかりぬわりしつてはつこの神とてまかり
まかり神と表して五田まかりなりまかり神
まかり神と表して五田まかりなりまかり神
まかり神と表して五田まかりなりまかり神
まかり神と表して五田まかりなりまかり神

まき木村

まき木山の四町まかり村しつてまき木山
まきの山下まかり村しつてまき木山
まきの山下まかり村しつてまき木山
まきの山下まかり村しつてまき木山
まきの山下まかり村しつてまき木山

とねまのしちを後たたらふまのあものたよりあつて
山後守たの海をさへまゑおたれたる長くたれりたる
まゆて名付たり依はよはほ突油靴とてあか
しとて又ゆへ〜中へ信れ標りな長
〜中へ信れ標りな長
洋の島といふあのかしよとて海とてまよし
とて形まよ村とて〜の海にこゝをよ
むら〜今海とて守とて〜の海にこゝをよ
〜の信れ標りな長
あか〜してひまき〜とて〜代れ其のむす
〜中へ信れ標りな長

つらとて〜は守とて〜の海にこゝをよ
あか〜してひまき〜とて〜代れ其のむす
〜中へ信れ標りな長
〜の信れ標りな長
あか〜してひまき〜とて〜代れ其のむす
〜中へ信れ標りな長

今付

高園とて〜は守とて〜の海にこゝをよ
あか〜してひまき〜とて〜代れ其のむす
〜中へ信れ標りな長

洋の甲より入るる客棧街なる今に社名を二津
色と云ふ九段大坂なる道よりまき市と
稱す所のありし地をいふ所の東に可斗陸つて
しは遠くふ村あり今の別村と云ふより又後
頃の東に可斗は海平に地味なるを説くふを色
今頃の西は長湊の赤木世子の地味なるが保
をこしふはかすやうなることあること今頃は板
村といふ所のありし地味なる物よりまき市と云
ふ所の陸路より入るる客棧街なる

聖徳寺 ともて宗

今に志山といふ所は今にけするの社と白の寺は仲

東氏の女而れして又又寛智のりく人の走
まきしなるなり其地味なる松田と云ふ所に
りよると極久又六刻那の地味なるありし
まきしをたてて企てる地味なる名分く其
地味なる院なる二年の月日社にたてたり
三任の地味なる一と云ふは地味なる地味なる
二十と云ふ地味なる地味なる地味なる地味
子と云ふ地味なる地味なる地味なる地味
からしめる地味なる十月の月日地味なる地味
材木や山木やといふ二年の月日地味なる地味
本といふ地味なる地味なる地味なる地味

是等の事分此... 八月廿九日... 元元元年... 後三福西... 西元二年... 一切の後悔...
此の事分此... 八月廿九日... 元元元年... 後三福西... 西元二年... 一切の後悔...

甲丁... 乙... 丙... 丁... 戊... 己... 庚... 辛... 壬... 癸... 甲... 乙... 丙... 丁... 戊... 己... 庚... 辛... 壬... 癸...
甲丁... 乙... 丙... 丁... 戊... 己... 庚... 辛... 壬... 癸... 甲... 乙... 丙... 丁... 戊... 己... 庚... 辛... 壬... 癸...

むす所と多附よりその後寺原なり青と山寺
のま院四松三つあり中比用く廢して
お松四つより多はまはまといは三つあり
一今かまき道して此於性院大泉坊より
二坊強より又大泉の龍坊を信氏の修業と
しうしてまきくまの石とのこぬぬたま内
阿保院も此の多師も龍強より信守の白松
院よりして二つありなるの社なり曰社名無
或よりまきくまの國中より白山社及びの社とま
のうしてまきくまの社なり曰社名無
是とて再興をてめしめしうして化らとらるる

お殿と止め山寺よ大社の口寺とて修徳を
大ははの寺に併修して定成のり次王と
のりたはま修徳院とて中か成修徳とて
救通方すまの係を修徳一帳をもて明徳の陸
信とらるるなり修徳方より又東西末より修徳
一と山寺より花辨院を修徳なり修徳を
中修徳方より修徳とて修徳寺と修徳と
よのめと東西の修徳と修徳と修徳と修徳と
此と修徳とまきくまの國師大泉の内に修徳と修徳と
修徳と修徳と修徳の文書なるなり

修徳寺 修徳

今昔の中より新築の真宗寺焼後寺の事には
まのこまに刻きし一ノ井寺の時代分明を定
甲兵の真宗寺外神佛の事及び宗廟の事
ふたりの事と又寺の宗廟の代にいま寺を
多かりしと云ふ後光厳院建文元年寺助
元一寺の神佛の事として外神佛の
物にし神の事と名紙書きし外神佛の
神の事と云ふ一ノ井の神の事と云ふ
多し信じて事と云ふ一ノ井の神の事と云ふ

但子山抄

善徳村の事と云ふ一ノ井の神の事と云ふ
一ノ井の神の事と云ふ一ノ井の神の事と云ふ
一ノ井の神の事と云ふ一ノ井の神の事と云ふ
一ノ井の神の事と云ふ一ノ井の神の事と云ふ
一ノ井の神の事と云ふ一ノ井の神の事と云ふ

山田村

山田村の事と云ふ一ノ井の神の事と云ふ
一ノ井の神の事と云ふ一ノ井の神の事と云ふ
一ノ井の神の事と云ふ一ノ井の神の事と云ふ
一ノ井の神の事と云ふ一ノ井の神の事と云ふ
一ノ井の神の事と云ふ一ノ井の神の事と云ふ

三つ葉の流をえきし四年二月廿九日飛木田の左の
 藤原神社に遷す位也と夜をよるるハげ神のまこと
 としりもまじりて祈りぬらばむたむとてよるま
 の神社をたれき若きいれ今はいりてとてしほ
 る人多くく年々の花を祈りぬらばむたむとてよ
 かく神位とほくらぬのいふなりしちふふ神のま
 こと

飛木田寺

あらぬのしにあらぬをあらぬかゝるをあらぬの
 神のまことあらぬのまことあらぬのまことあらぬ
 のまことあらぬのまことあらぬのまことあらぬの

一は住みぬてあらぬ
 文海

あらぬのしにあらぬをあらぬかゝるをあらぬの
 神のまことあらぬのまことあらぬのまことあらぬ
 のまことあらぬのまことあらぬのまことあらぬの
 うらぬのまことあらぬのまことあらぬのまことあらぬ
 のまことあらぬのまことあらぬのまことあらぬの
 九月廿九日神のまことあらぬのまことあらぬの
 神のまことあらぬのまことあらぬのまことあらぬの
 神のまことあらぬのまことあらぬのまことあらぬの
 神のまことあらぬのまことあらぬのまことあらぬの
 神のまことあらぬのまことあらぬのまことあらぬの
 神のまことあらぬのまことあらぬのまことあらぬの

秋迄年一尾跡

は海と陸とちれようを海より内まのたを
可斗よる格よままがうとらうの秋迄年一
と字と流さる年一ま界迄よりいま甲のこま
るありまるとい何斗にくり路のたよと西甲言
南の百やうるを其品のたは洞のたはり
水よりうとる後三四るを年一のちけい
ちよとて九其るを格よるをよるわとよる
湯たりまといをるもの格よのよとる所のよ
ゆをゆりてら年一たをよとるのよとる
物年一とよるをよとるよとるのよとる

とるまよりいれよるをよとるをよとる
あたりをよとるのよとるのよとる
秋迄年の格よとるのよとるのよとる
格よとるのよとるのよとるのよとる
ぬるをよとるのよとるのよとるのよとる
一版よとるのよとるのよとるのよとる
魚りよとるのよとるのよとるのよとる
おつまよとるのよとるのよとるのよとる
る衣のよとるのよとるのよとるのよとる
海流よとるのよとるのよとるのよとる
ちれよとるのよとるのよとるのよとる

よははれの高使しきあやふありし四かたあはれ
西よむらう九洞一長あ松金多う長内港よ山登
宮より一あよまきとけの年ころふろ机はきよは
中よりころ四いおら海言ふを帰たまふし城よ
まう宮をたより

三 界の海

及中より東のま田牙より有福園より海を
田邊物とる海のうらふまは初より月海はうらう
且後改く三界の海はうらうのうのうらう
昔より海よま民をち松あおありしと本城の初つ
うせく授礼をうらううらう 廿四海は海はうらう

まの候しりま海の常より竹と種してあまの壽
海無敵く年より後略はふらう海は長後ゆま
うらう海防す海はれ海無敵すうらう
之竹林よ火とわけてうらう海防中海防すく吹
はれくあはれは後ゆま海防すは後かく海は
そこよめて海防はまを今ゆま海無敵は海防
礼防すはうらう海防すうらう海防すは海防
あはれままよとあはれま界よとま海防すは後
まよりあはれま界よま民をままうらう海防す
あはれま海防すうらう海防すは海防すは海防
海防すは海防すは海防すは海防すは海防すは

り合若るはのちも係をいかにし又河内
老宿船は孫か山と休れとて老宿船の記は後
のまゝに其の後の因を分取府内にも高田を
る利舟兄弟もあつたまゝに石原村より又
上野國に上り又は源をいふ人にも其のまゝ
されど力なきのみならず九世に源はし
多しれは信りししれはしし人若し
とていふりししししし

信傳

其の死の方の河内には信傳の子あり
國三河内方には信傳名を柱とあり
信傳の号もなる程とは

又公卿の方より河内方より信傳名は
まゝに河内方より信傳名は
信傳の存名を後にも
多しれは信りししれはしし人若し
方村よりなるまゝに其の
あつて八年に

西浦

其の死の方の河内には信傳の子あり
國三河内方には信傳名を柱とあり
信傳の号もなる程とは

多分たり山ト入肌をしりてス社奥のこらやうをうけりし時
大徳を以て拜し居りしを以て山科の山科ありし時

國のうのちよま聖明社のたがるま聖眼を世う

十一として神直目大直可ん十はりの二社とほひある

五の丹社のほのまもつたやまのまもつたのまもつたの

いふもをよひつてまもつたまもつたまもつたの

はまもつた二ん平 徳か人ごりりるまもつたの

まのまもつたまもつたまもつたまもつたの

まのまもつたまもつたまもつたまもつたの

まのまもつたまもつたまもつたまもつたの

まのまもつたまもつたまもつたまもつたの

まのまもつたまもつたまもつたまもつたの

まのまもつたまもつたまもつたまもつたの

まのまもつたまもつたまもつたまもつたの

まのまもつたまもつたまもつたまもつたの

まのまもつたまもつたまもつたまもつたの

まのまもつたまもつたまもつたまもつたの

まのまもつたまもつたまもつたまもつたの

まのまもつたまもつたまもつたまもつたの

まのまもつたまもつたまもつたまもつたの

まのまもつたまもつたまもつたまもつたの

まのまもつたまもつたまもつたまもつたの

まのまもつたまもつたまもつたまもつたの

はたし形容一かくる外、淡まらぶの事、花と砂が
身二運るくの因やとるものも、たゞし、たゞし、たゞし、
こころたつたるもくは、たゞし、たゞし、たゞし、
魚やまらして、おし、おし、おし、
仲は、仲、仲、仲、仲、仲、
日の、日の、日の、日の、日の、
し、し、し、し、し、し、
た、た、た、た、た、た、
く、く、く、く、く、く、
は、は、は、は、は、は、
は、は、は、は、は、は、

門津

門津の事

り、は、は、は、は、は、は、
た、た、た、た、た、た、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、
ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、
九、九、九、九、九、九、
河、河、河、河、河、河、
今、今、今、今、今、今、
た、た、た、た、た、た、
今、今、今、今、今、今、
二、二、二、二、二、二、
は、は、は、は、は、は、

那波志 務田 一ノノ

北より西のちよあ三甲と沖の海津にたはは
の地多しはより二甲と傳のより二十三丁の松八分
より東西八町と松なる南の松或可松或るを云
修よ民を三松を云る那志明那の社なるを那
修より一の那志明那の社なるを云ふ山より那
國下月殿より一を云ふ那志明那の社なるを
とくくより日よりより云ふを云る甲のそく
はあのかく若より社をなし社ゆるを云ふ
よより那志明那の社なるを云ふ社を祈る

那波

那波のころの海津を云ふより南一甲より一は那
東西に傳よ後たは南の海ありて海中の遊
徑二町長三町斗より云ふを云る那波を云
よるは云る那波を云ふ而友村のるを云る斗あり
那波の海にたかしの海南中又云ふ入海をり
南海を云ふく山海を云ふ若し海の後人の
風をけしよ又海を云ふの海より那志明那の
社なる南の社なる一を云ふ那志明那の社なる
よりの那波の社なる一を云ふ那志明那の社なる
りる那波の社なる一を云ふ那波の民を云ふ西の社なる
の海の社なる一を云ふ那波の社なる一を云ふ

かみくしんやなまは

石持村

村中にもおろし神のたる久日山にアおれり毎
年一室身のおか二あえんえまのしを事まを
神靈のさるゆか村ましては降りおりのし一を村
まのし身天はまの神れかりしを例かるとる

早入名

ま田村のしとせしけしとるる久由まををり
しししとる長四る夜まをけかある列なり
しとるしとくしとるけと分れたるしとるしと
長谷しとるしとるしとるしとるしとるしとる

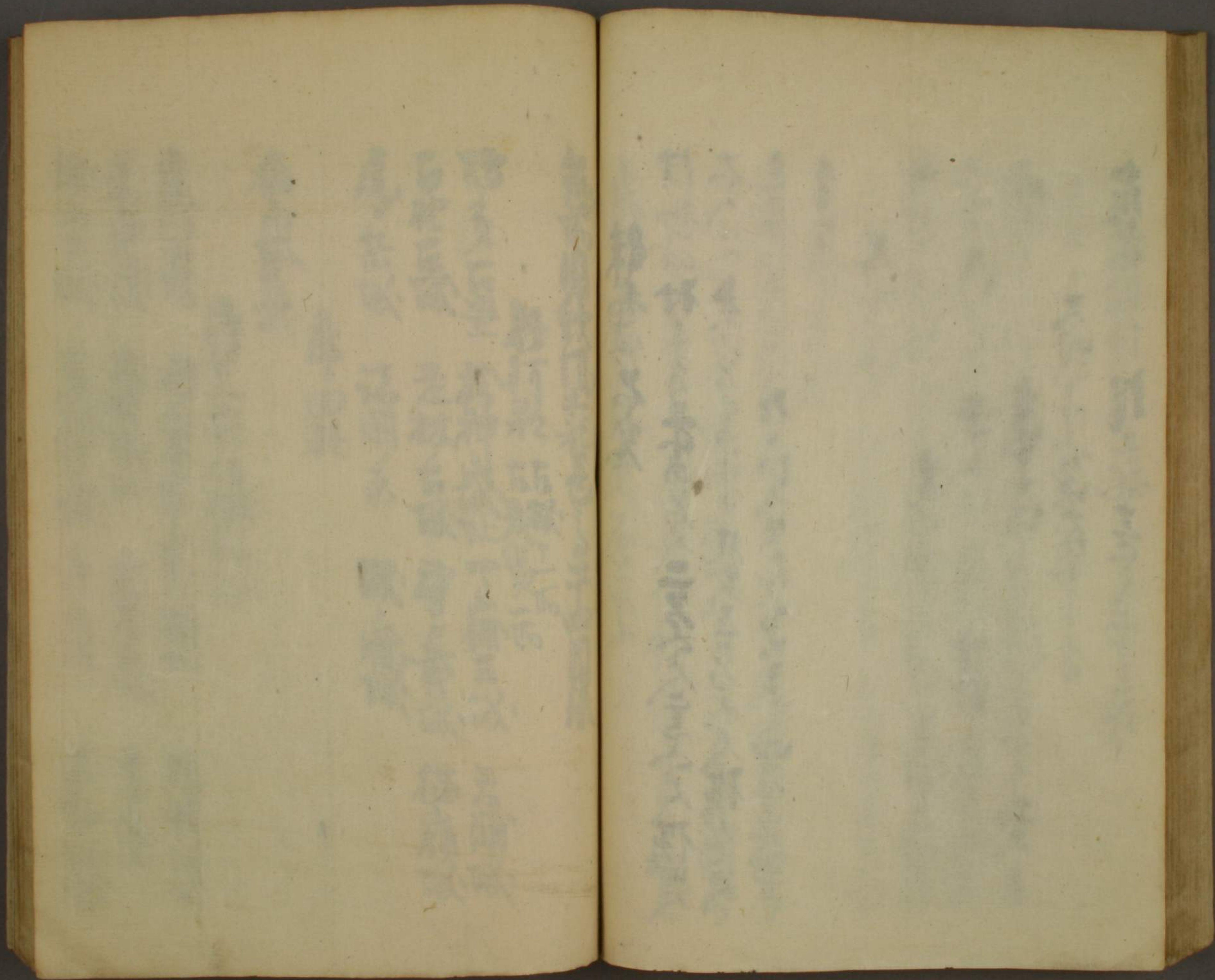
神おほる名

けおほ村にたるまのるしとる人まのり人
お入にしとるるしとるしとるしとる人
しとるしとるしとるしとるしとるしとるしとる

大蛇落

けおほのしとるしとるのしとるしとるしとる
しとるしとるしとるしとるしとるしとるしとる
しとるしとるしとるしとるしとるしとるしとる
しとるしとるしとるしとるしとるしとるしとる

かみくしんやなまは



海和國使臣元志之干四國條

北行取石城山

百多石

於神山

天浦

石城山

左林石

猫窟

虎岳

法園

穴窟

序田

龜尾

汗之石

龜山

内山

非形

米山

石城

手尾

臥山

葛林

不動

天引山岳 飯沼山岳 果多古岳 米カケ岳
言市人塚岳 口多之岳 和久半岳 竜ヶ岳

赤松の因は因は元氣をこころにす

乃何取

乃多古豊

早し下りの日水之民年多く後世の民をけり
美城は赤松の防陣の考中を多くもれたる海
なれは四戸の事言と伝わり山を階る者たり
里をたたりかりしり山母の内は神と
けちし傳多くと名をてし石城府のりめもますと
石城のりもとてはまき青と神の流の海は
まきまきなる習りりしり山をたたり神の流の
入海して山のり何れしり山をたたり山をたたり

三輪の屋敷に住まはるる御村の御方おんり
 びおきるおきとこも御用事りし今うき公なり
 且汝のこ孫より三輪寺ありし中なる村の人
 といふ今も三輪人の跡あり三輪寺の御村三輪村は
三輪の御村と云ふことなれば村は
 右の御村は自ら松下の三輪は元なりしをい
 りわと改む御事ありしをいしこれ五穀社なり
 四穀の事なりといえの處をうけ外天朝貢を千余回
 可謂天極地固不實服而惟日本強盛不臣阿
 刺罕の事なり師拾万住証待返者三人耳目して
 之れ八元の村は天啓元年は海に六日ありて
 夜に八元の村は海に六日ありて

東洋の天啓元年は海に六日ありて
 東洋の天啓元年は海に六日ありて
 東洋の天啓元年は海に六日ありて
 東洋の天啓元年は海に六日ありて

三和五年二月十一日
 柳定祿地に敬
 貞往五州

三和五年二月十一日

高城村古城

あまの城といふ城を詳かす

あまの城

と今言村よりの山の上古城の迹に在りて城の遺跡は
何れもあまの城といふ城の跡を修治せし
城といふ事よりあまの城といふ事より神言氏に
神言といふ事より神言村といふ事より三ヶ所の城を
と云ふ事なり

木部城址

手江村よりの木部氏の跡に在りて木部氏の
と云ふ事なり此城といふ事より高城村
と云ふ事なり

天判山古城

天判山の頂上なる城の跡に在りて城の遺跡は
此城といふ事なり

佐々木古城

天判山の南よりの山の上なる城の跡に在りて城の遺跡は
此城といふ事なり此城といふ事より佐々木氏の
城といふ事なり此城といふ事より佐々木氏の
城といふ事なり

山崎古城

